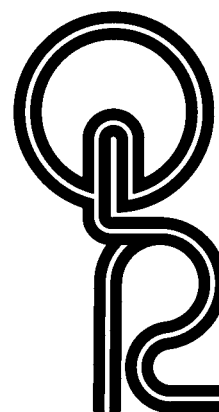


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 24 No.2, 2017



シンポジウム「ジオパークと土壌:大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌の役割」の様子 (撮影:馬 旭平)

**役員選挙への投票をお願いします。**  
投票期間は4月8日から5月1日までを予定しております。

Vol. 24 No. 2

April 1, 2017

2017年大会案内 (第4報)..... 2	INTAV 野外研究集会の案内 ..... 9
JpGU-AGU Joint Meeting 2017 案内 (第3報)..... 5	ジオパークシンポジウム報告 ..... 10
学会賞・学術賞講演会の案内 ..... 8	組織改革委員会議事録 .....11
第3回アジア第四紀研究会議の案内 . 8	評議員会議事録・臨時評議員会議事録..11
TERPRO 国際ワークショップの案内..8	幹事会議事録..... 19
	会員消息..... 20

## ◆日本第四紀学会 2017年大会案内 (第4報)

本大会は、シンポジウム「第四紀研究から防災・減災への多角的なアプローチ」を中心に開催いたします。一般研究発表(口頭およびポスター)でも、5つのセッションを設けて会員各位の積極的な発表をお待ちしています。5つのセッションでは、それぞれ関連する学協会の共催を得て、幅広い研究が展開されることも期待しています。

### 1. 大会テーマ 「第四紀研究の多角的なアプローチ」

### 2. 開催場所 福岡大学 中央図書館多目的ホールおよび 18号館 2階講義室

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map>

・福岡大学七隈キャンパスへのアクセス

天神南駅から七隈駅または福大前駅まで約16分(福岡市営地下鉄七隈線)

(地下鉄天神駅と天神南駅は天神地下街を經由して徒歩8分で乗り換え可)

### 3. 開催日程 2017年8月26日～8月30日

8月26日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)

8月27日(日) シンポジウム、総会・各賞授賞式、懇親会

8月28日(月) 一般研究発表(口頭およびポスター)

8月29日(火)～30日(水) 巡検

巡検1「古代伊都国の史跡と第四紀地質」(29日 日帰り)

巡検2「熊本地震関連で巡る熊本～阿蘇」(29～30日 1泊2日)

### 4. 締め切り日：・一般研究発表申し込みと講演要旨原稿 6月30日(金) 17時

・巡検参加申し込み 8月1日(火) 17時

・懇親会事前予約 8月11日(金) 17時

### 5. 一般研究発表

今大会の一般研究発表(口頭およびポスター)は、5つのセッションで開催します。

各セッションのキーワードをご参照のうえ、第1希望から第3希望まで選んでください。

#### ・セッション1「大気と海洋」

コンビナー：村山雅史(高知大)、七山 太(産総研)、加 三千宣(愛媛大)、浅海竜司(琉球大)

キーワード：a) 気候変動、大気・海洋循環、氷河・氷床、海洋酸素同位体比、地球軌道変化

b) 海水準変動、海底・海岸の地形と堆積物

#### ・セッション2「陸上の諸プロセス」

コンビナー：堀 和明(名古屋大)、松多信尚(岡山大)、宮縁育夫(熊本大)、荻谷愛彦(専修大)、

井上 弦(神奈川県農業技術センター)、片岡香子(新潟大)

キーワード：a) 地形発達、古地震、構造運動、噴火史

b) 寒冷地域の地表プロセス、土壌、陸水(湖沼、河川、地下水)

#### ・セッション3「層序と年代」

コンビナー：里口保文(琵琶湖博)、竹下欣宏(信州大)、山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)、下岡順直(立正大)、箱崎真隆(歴博)

キーワード：a) 編年、層序、対比、広域テフラ、年代指標

b) 年代測定(測定方法とその適用事例を含む)、年代決定

#### ・セッション4「人類と生物圏」

コンビナー：小池裕子(九州大)、米田 稯(東京大)、工藤雄一郎(歴博)、杉山真二(古環境研)、

藤木利之(岡山理大)

キーワード：a) 考古、古人類、食性分析、環境適応、人為生態系

b) 動物、植物、生物地理、古生態、植生変化

・セッション5「現代社会」

コンビナー：井村隆介（鹿児島大）、香川 淳（千葉県環境センター）、品川俊介（土木研）、西山賢一（徳島大）、小森次郎（帝京平成大）

キーワード：a) 環境問題、災害、応用地質、工学、地盤、自然改変  
b) 地学・地理教育、自然・文化遺産保護、ジオパーク

6. シンポジウム「第四紀研究から防災・減災への多角的なアプローチ」

共催（予定）：京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設、東北大学災害科学国際研究所、  
熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター

8月27日（日）9時15分～16時

第1部「現在の災害研究としての第四紀研究」

座長：黒木貴一・遠田晋次・鳥井真之・中西利典

- S-11 趣旨説明……………奥野 充・石原与四郎（福岡大）・遠田晋次（東北大）・鳥井真之・（熊本大）・黒木貴一（福岡教育大）・中西利典（京都大）・米田 穰（東京大）
- S-12 自然災害調査に基づくハザードマップ精度向上の課題……………黒木貴一（福岡教育大）
- S-13 2016年熊本地震における災害遺産の第四紀地質学……………鳥井真之・渡邊 勇・藤見俊夫（熊本大）・鶴田直之・奥野 充（福岡大）・池辺伸一郎（阿蘇火山博）
- S-14 熊本地震に見られる誘発性地震断層とC級活断層……………遠田晋次（東北大）
- S-15 平成28年熊本地震において生じた宅地地盤災害と地盤特性……………村上 哲（福岡大）
- S-16 九州のテクトニクスからみた熊本地震……………竹村恵二（京都大）

第2部「堆積物や遺跡から読み取る過去の災害」

座長：奥野 充・石原与四郎・米田 穰

- S-21 阿蘇カルデラ斜面における斜面崩壊・土石流の発生頻度の推定……………西山賢一（徳島大）・鳥井真之（熊本大）・横田修一郎（元・島根大）・若月 強（防災科研）・井上 弦（神奈川県農技センター）・中尾賢一（徳島県博）・星出和裕（熊本県庁）・奥野 充（福岡大）
- S-22 高精度ボーリングコア解析による大規模活断層の活動履歴の検討……………中西利典（京都大）
- S-23 開聞岳の貞観噴火災害の様相と噴火対応……………成尾英仁（甲南高）・鎌田洋昭・中摩浩太郎・渡部徹也・恵島瑛子（指宿市教委）
- S-24 三陸海岸における津波堆積物研究……………石村大輔（首都大東京）
- S-25 鍾乳石から読み取る大規模津波……………吉村和久（九州大）
- S-26 津波堆積物の数値モデリングと地震・津波像の復元……………菅原大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- S-27 別府湾におけるK-Ah降灰以降のイベント堆積物とその頻度……………山田圭太郎（京都大）・加三千宣（愛媛大）・池原 研（産総研）・山本正伸（北海道大）・原口 強（大阪市立大）・竹村恵二（京都大）
- S-28 年縞堆積物に挟在するイベント層……………佐々木 華・石原与四郎（福岡大）

第3部「第四紀研究による災害予測の精緻化」（総合討論）

司会：遠田晋次

7. 巡検

【巡検1】「古代伊都国の史跡と第四紀地質」 後援：伊都国歴史博物館

【日 程】8月29日（火）日帰り

【案内者】磯 望（西南学院大学人間科学部）、岡部裕俊（伊都国歴史博物館）、下山正一（佐賀大学低平地沿岸海域研究センター）、小池裕子\*（九州大学博物館）（\* 責任者）

【スケジュール】8月29日8時半 九大学研都市駅集合 - 17時 同駅解散

・8時半 九大学研都市駅（JR筑肥線）集合（同駅の南隣に「山の鼻1号墳」）

- ① 今宿大塚古墳・今津干潟（二重周溝古墳と干潟の現状）、② 元寇防塁・二見が浦（糸島半島を半周しながら地質・蒙古襲来の歴史と地形）、③ 元岡瓜生貝塚（縄文海進期の旧汀線と貝塚）、④ 志登支石墓群（弥生時代初期の大塚系墓制の墳墓群と当時の糸島の地形復元）、⑤ 伊都国歴史資料館（昼食・館内の見学）、⑥ 平原遺跡（弥生時代終末の伊都国王墓）、⑦ 怡土城址（奈良時代『続日本紀』に記録されている吉備真備らが築城）、⑧ 丸隈山古墳（古式の横穴式石室内部見学）

・17時 JR 九大学研都市駅 解散(予定)

【参加費】未定(旅行傷害保険料、昼食および飲み物代を含む。支払方法は後日お知らせします)

【定員】30名(6月5日(月)からの申込先着順で、定員になり次第締め切ります)

【申し込み方法】参加ご希望の方はメールにお名前、ご所属、ご連絡先を記入の上、メール件名「伊都国巡検\_参加申込」にて jaqua.event(at)gmail.com へ 8月1日(火)17時までにお申し込みください(atを@にかえる)。

## 【巡検2】「熊本地震関連で巡る熊本～阿蘇」 後援：阿蘇火山博物館

【日程】8月29日(火)～30日(水)

【案内者】鳥井真之(熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター)、遠田晋次(東北大学災害科学国際研究所)、奥野 充\*(福岡大学理学部)(\*責任者)

【スケジュール】8月29日9時半 JR 肥後大津駅(阿蘇くまもと空港駅)集合 — 阿蘇市内宿泊 — 30日17時 熊本空港解散 — 18時 JR 熊本駅解散(道路状況や復旧状況によって変更あり)

・29日(火)9時半 肥後大津駅(阿蘇くまもと空港駅)(JR 豊肥線)集合

① 南阿蘇村 立野周辺(断層鏡肌)、② 旧阿蘇大橋付近大崩壊露頭(落橋跡と地震断層)、③ 高野尾羽根火山・高野台団地(表層崩壊)、④ 阿蘇火山博物館(見学・昼食)、⑤ 阿蘇中岳(火口周辺の堆積物と地形)、⑥ 阿蘇西小学校前・阿蘇市内牧温泉付近(断層と側方移動)、阿蘇市内宿泊(予定)

・30日(水)9時 阿蘇市内ホテル出発

⑦ 俵山北西麓(出ノ口断層沿いの地震断層と傾斜した高遊原台地の遠望)、⑧ 西原村大峯山と大畑ダム(地震断層と大峯火山)、⑨ 布田川川岸での高遊原溶岩の崩落(西原村役場近くより遠望)、⑩ 益城町潮井神社・杉堂(断層・昼食)、⑪ 堂園・三竹(布田川断層沿い地震断層)、⑫ 木山神社周辺(益城町中心部の被害と地震断層西端)

・17時 熊本空港解散、18時 熊本駅解散(予定)

【参加費】未定(旅行傷害保険料、宿泊費、昼食および飲み物代を含む。支払方法は後日お知らせします)

【定員】30名(6月5日(月)からの申込先着順で、定員になり次第締め切ります)

【申し込み方法】参加ご希望の方はメールにお名前、ご所属、ご連絡先を記入の上、メール件名「熊本・阿蘇巡検\_参加申込」にて jaqua.event(at)gmail.com へ 8月1日(火)17時までにお申し込みください(atを@にかえる)。

## 8. 発表の申し込みと講演要旨原稿の送付方法

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ(<http://quaternary.jp/index.html>)の大会・総会の2017年大会ウェブサイトの「発表申込書」と「講演要旨の原稿」に関するリンク部分からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内にそって申し込みを行ってください。各セッションのキーワードを参照のうえ、第1希望から第3希望まで記載してください。講演申し込みと、講演要旨原稿の提出をもって受付とします。口頭発表の演者、ポスター発表の説明者になれるのは、それぞれ1件です。また口頭発表の演者、ポスター発表の説明者は本学会員または共催学協会会員であることが必要です(共催学協会については、次の「第5報」をご参照ください)。

・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス jaqua.event(at)gmail.com に送付してください(atを@にかえる)。メール件名は「発表申込\_筆頭発表者名」、添付するファイルの名前は「講演要旨\_筆頭発表者名」としてください。2件申し込む場合は題名の後ろにA、Bをつけて両者を区別して送信してください。受付期間は6月5日(月)から6月30日(金)の予定です。

・講演要旨の原稿はA4で1ページ(図表掲載可)です。2017年大会ウェブサイトの「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。

・本学会員のうち2017年8月1日現在で39歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入してください。積極的なエントリーを期待しております。なお、審査対象の研究発表(口頭およびポスター)は、審査と表彰の関係から、すべて26日(土)に組み入れる予定です。

## 9. 参加費・懇親会

・大会参加費(予定):2000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払いください。

ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員、学部学生は無料です。

・講演要旨集:予定価格2000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります)

・懇親会に参加される方は、申し込みをお願いします。

日 時：8月27日(日) 18:30～(予定)  
 会 場：福岡大学 文系センター棟 16階 スカイラウンジ  
 参加費：一般 4500円(予約)、5500円(当日)、学生 2500円(予約)、3500円(当日)  
 予約方法：8月11日(金)までに e-mail: jaqua.event (at) gmail.com までご連絡ください (at を @  
 にかえる)。申し込み時のメール件名は「懇親会\_氏名」としてください。

#### 10. 大会実行委員会

実行委員会委員長：奥野 充 (福岡大)  
 実行委員：石原与四郎 (福岡大)・磯 望 (西南学院大)・下山正一 (佐賀大)・黒木貴一 (福岡教育大)・  
 小池裕子 (九州大)・小森次郎 (帝京平成大)・米田 穰 (東京大)  
 連絡先：2017年大会実行委員会事務局  
 〒 814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1  
 福岡大学理学部地球圏科学科 火山・有機地質研究室 (TEL: 092-871-6631 内線 6289)  
 大会用メールアドレス: jaqua.event(at)gmail.com (at を @ にかえる)

### ◆ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 (第3報) 日本地球惑星科学連合 2017年大会プログラム

今大会は AGU との共催となっており、過去最多の約 5600 件の発表が予定されています。  
 皆様の積極的な参加を期待しています。

- ・ 期日：2017年5月20日(土)～5月25日(木)
- ・ 会場：千葉県 幕張メッセ国際会議場・国際展示場 / APA ホテル東京ベイ幕張
- ・ 大会詳細：[http://www.jpogu.org/meeting\\_2017/information.html](http://www.jpogu.org/meeting_2017/information.html)
- ・ 早期参加登録締切：5月8日(月) 17:00

#### ■ 第四紀関係オーラルセッション (一部抜粋)

日時 \* [セッション記号] セッション名 (発表言語 \*\*) (会場)  
 \* AM1=9:00～10:30 AM2=10:45～12:15 PM1=13:45～15:15 PM2=15:30～17:00  
 \*\* スライド・ポスター表記、口頭発表言語の順：J=日本語 or 英語 (発表者選択) E=英語  
 太字は第四紀学会開催 (主催・共催) セッション、下線は PAGES 関連セッション

- 5月20日 AM1~PM1 [S-EM20] 地磁気・古地磁気・岩石磁気 (JJ) (A03)
- 5月21日 PM1 [H-SC07] **人間環境と災害リスク** (EJ) (A02)
- 5月21日 PM1 [M-IS14] **ジオパーク** (A01)
- 5月22日 AM1+2、PM1 [H-GM03、04] 地形 (JJ)、Geomorphology (EE) (105)
- 5月22日 PM2~5月23日 PM1 [S-SS12] **活断層と古地震** (EJ) (A04)
- 5月22日 PM1~5月23日 AM2 [M-IS23] **古気候・古海洋変動 (JJ)** (Int. Conf. R.)
- 5月22日 PM2 [S-GL38] 上総層群における下部-中部更新統境界 GSSP (JJ) (A05)
- 5月23日 AM1~PM1 [M-IS09] **津波堆積物** (201A)
- 5月23日 PM1+2 [A-CC37] **アイスコアと古環境変動** (EJ) (A08)
- 5月24日 AM1+2 [S-SS07] 地表地震断層の調査・分析・災害評価 (EE) (101)
- 5月24日 AM1+2 [H-CG28] **デルタ：複雑系への学際的アプローチ** (EE) (106)
- 5月24日 PM1+2 [H-CG30] 堆積・侵食・地形発達プロセス (EJ) (106)
- 5月25日 AM1+2 [H-QR05] **ヒト-環境系の時系列ダイナミクス** (JJ) (106)
- 5月25日 AM1+2 [S-GL37] 地球年代学・同位体地球科学 (JJ) (101)

■ **ポスターセッション**は、原則として、コアタイムが PM3 (17:30～19:00) でオーラルセッションと同日に開催されます。ポスターは終日掲載されます。ポスターボードの大きさは W180cm × H90cm です。

#### ■ 第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面節約のため筆頭発表者のみ掲載します。(3月10日に Web 公開されます。)

● H-QR05 『ヒト-環境系の時系列ダイナミクス』

オーラルセッション：5月25日(木) 9:00～12:15 (会場：106)

- 09:00~09:15 平林頌子ほか：琉球列島におけるローカル海洋リザーバー年代の短期的変動  
09:15~09:30 石井祐次：後志利別川低地の氾濫原発達過程  
09:30~09:45 野口真利江ほか：珪藻分析から見た関東平野奥部思川低地における MIS7～MIS8 以降の環境変遷  
09:45~10:00 田村糸子ほか：房総半島に分布する上総層群最下部層準のテフロクロノロジー  
10:00~10:15 西澤文勝ほか：大規模噴火によりもたらされた南九州を起源とする2つの中期更新世広域テフラ：竹山-笠森 10、辺川-笠森 5 テフラの認定とその対比  
10:15~10:30 青木かおり：アラスカ半島沖 Patton Seamount で採取された海底コアにおける Dawson tephra の発見  
10:45~11:00 川幡穂高：寒冷地域である北日本の最寒期における世界最古級の土器と石鏃の発明  
11:00~11:15 島田和高：30～19ka における高山景観への人類適応：最終氷期最寒冷期の黒曜石原産地開発  
11:15~11:30 小野 昭：森林限界の垂直移動と遺跡分布：オーストリア・北チロルの早期中石器時代  
11:30~11:45 久田健一郎：古代人にとってのザグロス山脈の地質学的魅力  
11:45~12:00 北川淳子ほか：景観変化の要因としての災害-福井県あわら市北潟湖地域を例として  
12:00~12:15 風岡 修ほか：東京湾岸埋立地北部における 2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化-流動化の分布と沖積層の分布との関係

ポスターセッション：5月25日(木) 13:45～15:15 (会場：国際展示ホール7)

1. 大平 亮ほか：備讃瀬戸の海域沖積層層序について-音波探査記録の再検討-
2. 七山 太ほか：Geomorphological Evolution of Hashirikotan barrier spit controlled by Seismotectonics along the Southern Kuril Subduction Zone
3. 大上隆史ほか：三陸海岸における谷底低地の津波遡上と河川地形- 2011 年東北地方太平洋沖地震津波の浸水範囲にもとづく検討-
4. 丹羽雄一ほか：三陸海岸中部・津軽石平野における完新統の堆積過程と地殻変動
5. 石原武志ほか：オールコアの解析に基づく会津盆地の浅部地下地質構造の検討
6. 泉田温人ほか：鬼怒川下流域の地下表層地質からみたクレバススプレーの発達と氾濫原の堆積環境変化
7. 木村克己ほか：ボーリングデータを基礎にした三次元浅部地盤モデルの構築手法と東京低地の例
8. 山田和芳ほか：静岡県浜名湖の過去 2000 年の自然環境史
9. 横田彰宏ほか：北海道北部、頓別平野における樽前火山起源のテフラ
10. 秋山大地ほか：関東平野 猿島台地南部と筑波台地、下総台地北西部に分布する上部更新統常総層にみられる海洋酸素同位体ステージ 5c の鍵テフラ
11. 北川珠己ほか：和歌山県串本町の陸繋砂洲コア試料から発見された天城カワゴ平 (Kg) テフラ
12. Christian Leipe ほか：Postglacial environmental change and prehistoric hunter- fisher-gatherer habitations in the Hokkaido region (northern Japan) inferred from pollen data and archaeological site distribution
13. 中沢祐一ほか：カナリア諸島テネリフェ島における黒曜石の産状とスペイン植民以前の遺跡に関する予備的調査成果
14. 中澤 努ほか：2016 年熊本地震で甚大な被害を受けた益城町市街地の地下地質

● S-SS12 『活断層と古地震』

オーラルセッション：5月22日(月) 15:30～17:00

(会場：A04 (アパホテル & リゾート 東京ベイ幕張))

- 15:30~15:45 北村晃寿ほか：中部日本、北部銭洲海嶺上に位置する伊豆諸島北部の後期完新世の隆起：西暦 1498 年明応地震の波源域の含蓄  
15:45~16:00 中村亮一ほか：シミュレーション及び震度分布の特徴の検討による安政江戸地震の震源像について  
16:00~16:15 豊蔵 勇：1855 年安政江戸地震時の地変・発光現象・被害分布から推定されること- 予察的検討；NNE-SSW 系地震断層の可能性-  
16:15~16:30 石辺岳男ほか：Can felt reports of historical documents be used to estimate the source of large earthquakes? - Evaluation of applicability to historical large earthquakes -  
16:30~16:45 加納靖之：地震年表や史料集における年月日の取り違えとその類型

16:45~17:00 小松原 琢：過密都市の犠牲者率から内陸地震の震央を推定できるか？兵庫県南部地震の例

**オーラルセッション：5月23日(火) 9:00 ~ 15:15**

**(会場：A04 (アパホテル & リゾート 東京ベイ幕張))**

- 09:00~09:15 大橋聖和ほか：2016年熊本地震を引き起こした布田川断層帯の過去30万年のテクトニクス  
 09:15~09:30 林 愛明ほか：熊本地震を引き起こした布田川日奈久断層帯における大地震の再来周期について  
 09:30~09:45 白濱吉起ほか：トレンチ調査が示す日奈久断層帯高野-白旗区間の活動履歴  
 09:45~10:00 東郷徹宏ほか：トレンチ調査から明らかになった日奈久断層帯日奈久区間の活動履歴  
 10:00~10:15 小俣雅志ほか：平成28年(2016年)熊本地震において新たな干渉SAR解析によって見出された地表変状  
 10:15~10:30 金 幸隆ほか：2016年熊本地震に伴い阿蘇カルデラ内に生じた亀裂の地形・地質要因  
 10:45~11:00 青柳恭平ほか：布田川-日奈久断層帯のセグメント境界における地震波速度構造  
 11:00~11:15 竹村恵二ほか：別府-万年山断層帯(大分平野-由布院断層帯東部)における重点的な調査観測-2016年度調査-  
 11:15~11:30 石山達也ほか：高分解能反射法地震探査の結果から推定される森本・富樫断層帯の構造的特徴  
 11:30~11:45 三村 明ほか：郷村断層(郷西方断層・郷村断層・仲禅寺断層)の地下比抵抗構造  
 11:45~12:00 山口 覚ほか：山崎断層帯主部南東部の地下比抵抗構造  
 12:00~12:15 阿部信太郎ほか：長岡平野西縁断層帯海域部の活構造分布と活動性について  
 13:45~14:00 後藤秀昭：布田川-日奈久断層帯のセグメント境界における地震波速度構造  
 14:00~14:15 山田圭太郎ほか：福井県水月湖の年縞堆積物中に記録された地震イベント  
 14:15~14:30 Taehyung Kimほか：Preliminary study on related faults and triggering mechanism of the 9.12 Gyeongju earthquake (ML=5.8)  
 14:30~15:15 総合討論

**ポスターセッション：5月23日(火) 15:30 ~ 17:00 (会場：国際展示ホール7)**

1. 近藤久雄ほか：Occurrence probability and frequency of large ( $M_j \geq 6.8$ ) earthquakes on active faults in Japan
2. 八木雅俊ほか：日奈久断層帯海域部における3次元地質構造解析手法の適用
3. 高橋直也ほか：布田川断層に並走する正断層の新規の累積変位：益城町下陣金山川沿いに現れた地震断層露頭
4. 郡谷順英ほか：干渉SARの新たな解析を用いて検出した平成26年(2014年)11月22日長野県北部の地表地震断層
5. 小俣雅志ほか：干渉SAR解析による平成26年(2014年)長野県北部の地震の余効変動
6. 加藤 護：石灯籠群の建立年代分布に見える歴史地震の影響
7. 中村 衛ほか：フランス人宣教師ルイ・ヒュレ氏による地震観測記録から推定した1858年前後の沖縄島周辺での地震活動
8. 楮原京子ほか：津軽山地東縁における反射法地震探査
9. 岩月祐真ほか：北上低地西縁断層帯のセグメンテーション
10. 石山達也ほか：武蔵野台地北東縁部の変動地形
11. 高橋啓太ほか：能登半島南部、邑知潟断層帯野寺断層の断層幾何学
12. 大谷具幸ほか：活断層と後期更新世に活動を停止した断層における破碎帯物質の比較研究-阿寺断層と奈良県中央構造線を例として-
13. 丸山 正ほか：Paleoseismic and topographic evidence for latest Pleistocene to Holocene repeated surface-rupturing earthquakes on the Sone Hills fault zone, central Japan
14. 田中知季ほか：能郷白山付近における根尾谷断層帯北部の断層変位地形と活動履歴
15. 高木颯汰ほか：濃尾活断層系、黒津断層の活動履歴-連動破壊におけるその役割-
16. 田力正好ほか：讃岐山脈北縁周辺の活断層とそのテクトニックな意義
17. 鶴 哲郎ほか：Seismic attenuation profiling for imaging active faults within poorly reflective oceanic crust in Nankai Trough
18. 坂下 晋ほか：多チャンネル電磁探査装置を用いた高密度CSAMT探査の活構造調査への適用
19. Yu-Fang Hsuほか：Active tectonics around an ongoing rapid surface deformation area in southern Taiwan by integrating geodesy and field investigation
20. Zahra Mohammadiほか：Tectonic features of active faults and seismicity in the Tehran basin, Iran

### ◆日本第四紀学会 2016 年 学会賞・学術賞受賞者講演会のお知らせ

期日：2017 年 6 月 17 日（土）13:30～16:05（参加費無料、申し込み不要）

会場：東京大学本郷キャンパス理学部二号館講堂

（会場詳細は [http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_06\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_06_02_j.html) をご参照ください）

13:00～ 受付開始

13:30～13:35 開会挨拶

13:35～14:20 学会賞受賞講演：辻 誠一郎 会員

「第四紀植生史研究と歴史景観生態学」

（受賞件名：花粉分析を中心とした後期更新世以降の植生史および人と自然の関係史の研究）

14:20～15:05 学術賞受賞講演：林 成多 会員

「日本列島における第四紀の昆虫相変遷の解明」

（受賞件名：形態学的・分子系統学的・生態学的検討に基づく日本列島の第四紀昆虫相変遷の研究）

15:05～15:20 休憩

15:20～16:05 学術賞受賞講演：水野清秀 会員

「鮮新—更新世堆積盆地の形成史研究と広域テフラの役割」

（受賞件名：鮮新—更新世の地質層序・テフラ・古地理に関する研究）

16:05 閉会

なお、講演会前（9:30～12:30）に評議員会の開催を予定しています。

### ◆第 3 回アジア第四紀研究会議案内

2017 年 9 月 4 日～8 日に韓国済州島で開催される第 3 回アジア第四紀研究会議のホームページが開設されました。

<http://www.asqua2017.org/>

要旨の投稿締め切り、登録の締め切りが、5 月 31 日になっています。

以下の済州島の巡検が予定されている様です。

A Suweolbong Tuff Ring, B Sanbansan Lava Dome, C Yongmeori Tuff Ring,

D Jungmun Daepo Columnar-Jointed Lava, E Seogwipo Formation,

F Cheonjeyeon Waterfall, G Mt. Halla (Rhododendron mucronulatum var.),

H Manjanggul Lava Tube, I Seongsan Ilchulbong Tuff Cone, Sunrise Peak

是非、ご参加頂けます様お願い致します。

斎藤文紀

### ◆TERPRO PATA Days 2017, 8th International Workshop on Paeseismology, Active Tectonics and Archeoseismology (13th - 16th November, 2017. Blenheim, New Zealand) の開催案内

TERPRO の IFG の一つである EGSHaz が主催する PATA Days 2017 は、当初 2017 年 4 月に開催される予定でしたが、昨年 11 月に発生した地震により開催が延期されておりました。この度、変更後の開催日程が確定し、INQUA ホームページならびに現地での開催団体にあたる GNS Science ホームページに案内が掲載されましたのでお知らせします。4 日間の会合の後、3 日間のフィールドトリップが予定されています。本件に関する詳細については、GNS Science のホームページを逐次ご確認頂くか、吾妻 (t-azuma(at)aist.go.jp) へお問い合わせ下さい。

（発表登録および参加登録は、3 月上旬の段階では準備中です）



We are pleased to announce new dates for the 2017 PATA Days Meeting: Monday 13th - Thursday 16th November, 2017. The meeting will be held in Blenheim, at the top of the South Island, at the northern end of the Marlborough Fault System and 30 km above the southern Hikurangi subduction zone. The first full day of the meeting will be a field trip to view some of the northern fault ruptures of the 2016 Kaikoura earthquake. This will be followed by three days of talks and presentations at conference venues in Ward and Blenheim. Meeting attendees are advised to arrive in Blenheim by the 12th November, and to arrange accommodation in Blenheim for 5 nights (12th-17th November). There will also be an optional post-meeting field trip from Friday 17th - Sunday 19th November. The post-meeting field trip will start in Blenheim and finish in Christchurch.

More information about this event at GNS Science website

(<https://www.gns.cri.nz/Home/News-and-Events/Events/PATA/Welcome>)

(以上、INQUA ホームページより抜粋)

## ◆ International Focus Group on Tephrochronology and Volcanism (INTAV) からの お知らせ

INTAV ではこれまで不定期に野外研究集会を開催してきました。  
次回の予定（概要のみ）をお知らせ致します。

集会名：Tephra Hunt in Transylvania

場 所：ルーマニア、ブラショヴ (Romania, Brasov)

時 期：2018年6月25～29日 ※巡検・集会の詳細は未定。

The next inter-congress meeting of the International Focus Group on Tephrochronology and Volcanism (INTAV) is to be held in Brasov, Romania. A medieval city in the Transylvanian region of Romania, Brasov is located in the southern Carpathian Mountains and easily accessible from Bucharest. It is near to several late Quaternary volcanic centres and the loess fields of the Danube-Black Sea area, where tephra has played an important role in providing chronology for these sequences. The INTAV executive would like to thank Daniel Veres and the local organizing committee for offering to host INTAV, and to welcome us to such a geologically diverse and culturally-rich region that is a bit off the beaten path. The conference, together with several possible workshops, promises to be a truly interesting, informative, and memorable event. A special feature will be a 50th anniversary commemoration of the publication of the first paper on the use of the electron probe to analyse glass shards as a correlational tool for tephrochronology (D.G.W. Smith and J.A. Westgate, 1968, *Earth & Plan. Sci. Letters* 5, 313-319).

INTAV and the LOC are applying for funding support from INQUA, PAGES, and other sources to help support students, early career researchers, and scientists from countries with low GDPs, to attend the conference. As well as local intra-conference trips, post- or pre-conference field trips may be offered.

More details about the conference will be provided soon. Meanwhile, please lock in the last week of June 2018 in your diaries for "Tephra Hunt in Transylvania" !

Local organizing committee:

Dr. Daniel Veres, Convenor/Chair, Romanian Academy and Babes-Bolyai University, Cluj, Romania (tephrochronology, paleoclimate)

Prof. David Karatson, ELTE Budapest, Hungary (geomorphologist, volcanologist)

Dr. Ioan Seghedi, Romanian Geological survey (volcanologist, geochemist)

Dr. Alexandru Szakacs, Sapientia University, Cluj, Romania (volcanologist, geochemist)

Dr. Ulrich Hambach, Chair of Geomorphology, University of Bayreuth, Germany (loess magnetism and paleoclimate)

Dr. Alida Timar-Gabor, Babes-Bolyai University, Cluj, Romanian Academy (OSL dating)

Prof. Cristian Panaiotu, University of Bucharest, Romania (paleomagnetism)

(首都大学東京 鈴木毅彦)

## ◆ジオパークシンポジウム報告

筑波大学 浅野眞希

2017年1月28日に筑波大学東京キャンパス文京校舎において、「ジオパークと土壌:大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌の役割」をテーマに、日本第四紀学会主催のジオパークシンポジウムが開催された。日本第四紀学会ジオパーク支援委員会によるジオパークに関するシンポジウムの開催は昨年引き続き2回目となった。参加者は、ジオパーク関係者や土壌学関係者など第四紀学会員以外も多く、約70名にご参加いただき、活発な議論が行われた。今回のシンポジウムでは、ジオパーク活動に土壌学的知見を取り込むとともに、土壌学分野の研究者にもジオパークの活動を広めることを目的として、土壌学分野から第四紀学会の非会員を演者として招いた。地球の活動と生態系の成り立ち、人間活動との関係がジオパークの重要な視点である一方、事前に実施されたジオパーク専門委員へのアンケート調査で、特に地域生態系の基盤となる土壌の知見の活用が不十分である現状が明らかになったことから、自然物としての土壌の科学的価値の認識を深める必要があると考えられた。そこで、講演内容として、銚子ジオパークからジオパークの理念や具体的な活動についてご紹介いただいた上で、土壌学から土壌多様性と保全、アウトリーチ活動の実践、土壌が担う生態系機能と都市化による影響についてご登壇いただき、さらに、第四紀学の立場から土壌学にどのような貢献が求められているのか、ご講演をいただいた。

コメント・総合討論では、ジオパークにおいて生物とのかかわりについても、今後議論が展開していくことを見据え、菌類学からジオパークへの関与の可能性について、さらに、第四紀学的土壌学を推進するために必要な視点について、コメントをいただいた。会場からは、土壌の生成プロセスや、火山灰の供給・植生・地形との関係について質疑応答が活発に行われた。特にジオパークでは、土壌と環境要因の相互作用や土壌生成プロセス、時空間的な変化、土壌中に認められる年代情報などの知見が求められている。そのため、土壌学者の参画とともに、第四紀学としての土壌学の発展が求められていることが問題提起としてなされた。また、土壌学者側からは、現在の土壌学者が多く扱っている、比較的短時間の物質循環や生化学的変化などのプロセス・メカニズム研究が、

第四紀学の時間軸のなかでどのように活かされるか、などの疑問が挙げられた。

会場からのコメントで、ジオパークにやってくる訪問者にとって、研究分野はシームレスでなければならない、という意見をいただき、ジオパーク活動は、分野間の共同研究が展開していくきっかけとなることが期待された。今後、ジオパークにおいて第四紀学各分野の合同のフィールドワークなどを実施してみたい。

今回のシンポジウムの内容については『第四紀研究』誌上での特集号が計画されている。また、次回は、ジオパークと教育をテーマにシンポジウムが計画されており、新たな展開が期待される。

※シンポジウム詳細 タイトル：『ジオパークと土壌：大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌の役割』  
開催日：2017年1月28日（土）

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 134 講義室  
主催：日本第四紀学会

共催：国立大学法人筑波大学

後援：日本土壌肥料学会、日本ペドロロジー学会、  
日本ジオパークネットワーク

プログラム

- |           |  |
|-----------|--|
| 1300-1320 | 趣旨説明 浅野眞希 (筑波大学)                               |
| 1320-1350 | ジオパークとは何か：銚子ジオパークを事例として 岩本直哉 (銚子ジオパーク推進協議会事務局) |
| 1350-1410 | 第四紀学からみた土壌学のジオパークへの貢献 植木岳雪 (千葉科学大学)            |
| 1410-1440 | 土壌多様性と保全 田村憲司 (筑波大学)                           |
| 1440-1510 | 土壌のアウトリーチ活動の実践 森圭子 (かわの博物館)                    |
| 1530-1600 | 土壌が担う生態系機能 和穎朗太 (農研機構)                         |
| 1600-1630 | 都市の発達と土壌 川東正幸 (首都大学)                           |
| 1630-1645 | コメント：菌類とジオパーク 糟谷大河 (千葉科学大学)                    |
| 1645-1700 | コメント：第四紀学の立場から 三浦英樹 (極地研)                      |
| 1700-1750 | 総合討論   |

## ◆日本第四紀学会 2016 年度第 4 回組織改革委員会議事録

日時：2月18日（土）10:00～16:00

場所：明治大学駿河台キャンパス Global Front 7 階 C4 会議室

出席：小野 昭会長、奥村晃史副会長、斎藤文紀副会長、吾妻 崇、北村晃寿、小荒井 衛、須貝俊彦、水野清秀、百原 新

1. 第2回評議員会における審議状況が報告された。
2. 第2回評議員会での議論を踏まえ、法務委員会規程、領域規程、執行部会規程を検討し、修正

案を作成した。

3. 常設委員会規程（案）、庶務委員会内規（案）、会計委員会内規（案）、広報委員会内規（案）、行事委員会内規（案）、役員選挙実施に関する内規（案）を検討した。会計委員会内規（案）については、次回会合までに修正案を作成することとした。
4. 役員選挙の届出様式および投票用紙の確認を行った。

## ◆日本第四紀学会 2016 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2017年1月28日（土）9:30～12:20

会場：筑波大学東京キャンパス文教校舎 116 会議室

出席：小野 昭（会長）、奥村晃史、斎藤文紀（以上、副会長）、吾妻 崇、池田明彦、植木岳雪、卜部厚志、奥野 充、川幡穂高、北村晃寿、須貝俊彦、中村由克、藤原 治、松浦秀治、三浦英樹、山崎晴雄、横山祐典、吉永秀一郎、百原 新（議事録）、遠藤邦彦（前会長）

欠席：阿部彩子、池原 研、出穂雅実、海津正倫、河村善也、工藤雄一郎、公文富士夫、小荒井 衛、齋藤めぐみ、佐藤宏之、里口保文、初宿成彦、鈴木毅彦、高原 光、竹村恵二、中川 毅、長橋良隆、八戸昭一、宮内崇裕、安田 進、米田 穰

百原庶務幹事の司会により、小野会長挨拶の後、山崎評議員を議長に選出し、定足数確認（出席者15名、委任状8通）を行った後、下記の報告・審議が行われた。

## 1. 報告事項

## 1. 2016 年度事業中間報告（2016 年 8 月 1 日～2017 年 1 月 31 日）（百原庶務幹事）

## 1-1. 庶務

- 1) 評議員会（第1回：9月17日、第2回：1月28日）、幹事会（第1回：9月17日、第2回：11月12日、第3回：1月9日）を開催した。
- 2) 会員登録情報の管理を行った。2016年12月31日時点の会員数は下記の通り。  
1,144名（正会員1,118名、賛助会員10社、名誉会員16名）。逝去会員：加藤芳朗会員、卯田 強会員、亀井裕幸会員、近藤和子会員
- 3) 学会賞・学術賞選考委員、論文賞・奨励賞選考委員の選挙を行った。
- 4) 組織改革に向けて、会則・細則の改訂、新規細則の草案作成を行った。
- 5) 新たに設置される領域への会員登録作業を

行った。

- 6) 2016年度会員名簿の原稿を編集した。
- 7) 転載許可・受け入れ図書の整理を行った。
- 8) 学会・シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った。
- 9) その他、学会活動に関する庶務活動を行った。

## 1-2. 会計

- 1) 会計に関する承認業務を行った。
- 2) 2016年度会計中間報告を作成した。

## 1-3. 顕彰

- 1) 「第四紀通信」および会員メーリングリストを通じて、学会賞、学術賞、論文賞、奨励賞の受賞候補者の募集を行った。
- 2) 学会賞候補者選考委員会および論文賞・奨励賞候補者選考委員会の委員選出の選挙を実施した。

## 1-4. 行事・企画

- 1) 2016年度第2回評議員会を2017年1月28日に筑波大学東京キャンパスで開催した。
- 2) 2017年1月28日に筑波大学東京キャンパスでシンポジウム「ジオパークと土壌」を開催した。

## 1-5. 編集

- 1) 「第四紀研究」第55巻第4号 特集号（7編、書評1編および大会巡検報告）、第5号（論説2編、短報1編、書評2編）、第6号（論説1編、書評1編）を刊行した。第55巻の総頁数は273頁である。
- 2) 2016年日本第四紀学会学会賞および学術賞受賞者に受賞記念論文の投稿を依頼した。
- 3) 編集委員会を3回（9月17日、11月26日、1月28日）開催した。12月31日現在、受理済み原稿は3編、手持ち原稿は論説5編、短報1編、資料1編、書評1編である。
- 4) 第55巻第1号から第6号に掲載された論文について、電子ファイルをJ-STAGEへのアップロード作業を実施した。

### 1-6. 広報

- 1) 「第四紀通信」第23巻第4号を発行した。第23巻第5号、第6号を編集し、発行した。
- 2) 「第四紀通信」第23巻第5号、第6号の電子版(pdf版)を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- 3) 日本第四紀学会ホームページを通じて、広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。
- 4) 日本第四紀学会メーリングリストを通じて、各種情報提供等を行った。
- 5) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行った。

### 1-7. 渉外

- 1) 日本地球惑星科学連合が開催するJpGU-AGU Joint Meeting 2017に「ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」および「活断層と古地震」をセッション提案した。
- 2) 12月25日に開催された自然史学会連合の総会に出席した。
- 3) 防災学術連携体が12月3日に開催したシンポジウムに参加した。また、2017年4月に開催が計画されている熊本地震1周年シンポジウムに講演提案を行った。

### 1-8. 組織改革委員会

- 1) 会合を3回(10月15日、11月6日、12月28日)開催し、細則の一部改訂案の作成、新規に制定する細則の草案作成、役員選挙にかかる検討を行った。

### 1-9. ジオパーク支援委員会

- 1) 2016年6月に開催したシンポジウムに関する「第四紀研究」特集号(4月刊行予定)の編集について協力した。
- 2) 1月28日に開催するシンポジウムの準備に協力した。

### 1-10. 国際第四紀学連合第19回大会組織委員会(斎藤・吾妻)

- 1) 大会組織委員会の幹事会(第40回)を12月

29日に開催し、会計監査結果報告等を行った。

- 2) 日本政府観光局から国際会議誘致・開催貢献賞を受賞し、その対応を行った。
- 3) 会計監査報告について、配布資料資料(収支決算書)にもとづき、収支決算の説明を行った。

### 1-11. 日本学術会議 INQUA 分科会 (吾妻・斎藤)

- 1) 第23期第3回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会を2016年12月27日(土)に日本学術会議で開催した。主な議題は、INQUA名古屋大会最終報告、第四紀層序編年に関わる議論の状況、2017年度代表派遣、2017年度の活動方針であった。
- 2) 第19回 INQUA Congress 開催後、大会組織委員会と共同で、講演要旨集・大会開催報告書の準備、決算・会計監査、Quaternary International 日本特集号第一集の発行、第二集の発行準備などを行った。第二集は論文56本が投稿、編集途中で2月中に受理論文がアップロードされる。第二集は2回(約30本ずつ)にわけて冊子体にするので、投稿受付を延長する予定。
- 3) 第四紀層序編年に関わる議論への参加  
IUGS 国際層序委員会…第四紀サブコミッション・前期中期更新世境界ワーキンググループ委員の斎藤文紀副委員長が代表派遣制度により南アフリカ・ケープタウンで開催された第35回万国地質学会に参加し、ワーキンググループの会合に参加した。また、Anthropocene, 完新世の細分に関わるセッションに参加して審議の状況についての情報を収集した。また、前期中期更新世境界模式露頭(GSSP)を千葉県の上総層群に設ける提案を行うための準備に参加した。

### 2. 2016年度会計中間報告

植木会計幹事により2016年度会計中間報告が行われ、了承された(資料1)。

## 2. 2016 年度会計中間報告（資料 1）

(2016 年 12 月 31 日現在)

## 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額(①)	12月31日現在(②)	増減(②-①)	摘 要
会費収入	10,560,000		-10,560,000	
正会員会費収入	10,300,000	8,409,350	-1,890,650	通常会員会費 8,242,000 円 学生会員会費 130,000 円 海外会員会費 37,350 円
賛助会員会費収入	260,000	200,000	-60,000	20,000 円×8 社 (10 口)
誌代	1,250,000	467,306	-782,694	要旨集売上 (5,600 円)、定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	750,000	383,431	-366,569	55 巻 4 号～55 巻 6 号別刷代
雑収入	500,000	132,550	-367,450	2016 年大会余剰金 (57,693 円)、JST、著作権料収入等
利子収入	5,000	29	-4,971	預金利息
広告料収入	0	0	0	
役員選挙積立金取崩収入	350,000	350,000	0	
INQUA 対策積立金取崩収入	0	0	0	
名簿作成積立金取崩収入	1,200,000	1,200,000	0	
予備費積立金取崩収入	0	0	0	
収入合計	14,615,000	11,142,666	-3,472,334	
前期繰越金	14,392,702	14,392,702	0	
合計	29,007,702	25,535,368	-3,472,334	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	予算額(①)	12月31日現在(②)	増減(②-①)	摘 要
会誌発行費	5,300,000	3,397,694	-1,902,306	
印刷費	3,000,000	1,170,180	-1,829,820	第四紀研究 55 巻 4 号～55 巻 6 号
編集費	900,000	900,000	0	
編集人件費	1,200,000	1,200,000	0	
別刷印刷費	200,000	127,514	-72,486	第四紀研究 55 巻 4 号～55 巻 6 号
会誌・会報送費	600,000	240,462	-359,538	第四紀研究 55 巻 4 号～55 巻 6 号
会報発行費	850,000	390,184	-459,816	
印刷費	550,000	301,644	-248,356	第四紀通信 23 巻 4 号～23 巻 6 号
編集費	70,000	64,540	-5,460	第四紀通信編集費
編集人件費	190,000	24,000	-166,000	第四紀通信編集アルバイト代
学会 HP 運営費	150,000	54,234	-95,766	HP 更新アルバイト代、ドメイン更新料等
大会運営準備金	400,000	0	-400,000	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	
講演会・シンポジウム費	100,000	0	-100,000	
予稿集印刷費	300,000	134,784	-165,216	2016 年大会講演要旨集 (本 200 部)
学会賞等顕彰費	200,000	154,864	-45,136	副賞 2 名 (100,000 円)、賞状作成費
講習会費	50,000	0	-50,000	
通信費	400,000	132,294	-267,706	会費請求書送付郵税、事務通信費等
会議費	50,000	0	-50,000	
旅費・交通費	600,000	265,201	-334,799	幹事会・委員会等交通費
印刷費	500,000	217,101	-282,899	学会専用封筒、コピー代
業務委託費	2,400,000	1,026,000	-1,374,000	事務委託費概算払分
INQUA 対策費	0	0	0	
役員選挙費	700,000	0	-700,000	
名簿作成費	1,500,000	478,194	-1,021,806	
INQUA 対策積立金繰入支出	100,000	100,000	0	
役員選挙費積立金繰入支出	0	0	0	
名簿作成積立金繰入支出	0	0	0	
予備費積立金繰入支出	0	0	0	
研究委員会助成金支出	150,000	0	-150,000	
加盟学協会分担金支出	60,000	0	-60,000	地球惑星科学連合、自然史学会連合分担金
国際科学技術コンテスト協賛金	50,000	0	-50,000	国際地学オリンピック協賛金
アウトリーチ費	100,000	0	-100,000	
60 周年記念事業費	0	0	0	
雑費	50,000	11,558	-38,442	振込手数料等
予備費	50,000	0	-50,000	
支出合計	14,760,000	6,602,570	-8,157,430	
次期繰越金	14,247,702	18,932,798	4,685,096	
合計	29,007,702	25,535,368	-3,472,334	

貸借対照表

(2016年12月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
郵便振替	6,646,008	前受会費	29,390
小口現金	269,156		
普通預金	9,737,457	小 計	29,390
現金(事務局)	9,567	正味財産	
		名簿作成積立金	0
固定資産		役員選挙積立金	0
定期預金	10,000,000	INQUA対策積立金	200,000
		予備費積立金	7,500,000
		次期繰越金	18,932,798
		(前期繰越金	14,392,702)
		(当期収支差額	4,540,096)
		小 計	26,632,798
合 計	26,662,188	合 計	26,662,188

財 産 目 録

(2016年12月31日現在)

(単位：円)

資産の部		
科 目	摘 要	金 額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	6,646,008
小口現金	編集書記手許金	269,156
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	9,532,982
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	204,475
現金	事務局手持ち金	9,567
流動資産合計		16,662,188
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		26,662,188

負債の部

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額
前受会費	2016年度以降年会費	29,390
合計		29,390

正味財産の部

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	200,000
予備費積立金	予備費積立金	7,500,000
次期繰越金		18,932,798
	前期繰越金	14,392,702
	当期収支差額	4,540,096
合 計		26,632,798

3. 顕彰関係の選考委員選挙結果(百原庶務幹事)

学会賞候補者選考委員会および論文賞・奨励賞候補者選考委員会の委員について、評議員による投票によって下記の各5名の会員が選出された。学会賞候補者選考委員会：長橋良隆会員(地質)、鈴木毅彦会員(地理)、辻 誠一郎会員(古生物)、松浦秀治会員(人類)、中村俊夫会員(地球化学)、

次点：中川 毅会員(地質)

論文賞・奨励賞候補者選考委員会：田村 亨会員(地質)、宮内崇裕会員(地理)、青木かおり会員(地理)、澤井祐紀会員(古生物)、工藤雄一郎会員(考古)、次点：井上 弦会員(土壌)

候補者の推薦を出していただくよう依頼を行った(1月末が推薦締め切り)。

#### 4. その他

##### 4-1. 研究委員会の活動状況について（吾妻幹事長）

###### (1) 第四紀年代層序研究委員会

###### ■ 2015 年度活動報告

「千葉セクション」GSSP プロポーザル作成支援のため、以下の活動を実施した。

- 1) 地球惑星関連学会連合大会における GSSP セッションの開催（5/24）  
口頭 6 件、ポスター 4 件の関係発表があった。
- 2) プロポーザル作成のための関係者集会（2/2：国立科学博物館）  
L-M 境界 WG の議長である Head 教授を交え、プロポーザル申請締切時期を本年一杯であること、また審査過程について確認した。
- 3) プロポーザル作成のための関係者集会（5/23）  
論文作成状況および研究進展状況を確認し、日本第四紀学会千葉大会で第四紀層序シンポジウムが開催予定であることを確認した。

###### ■ 2016 年度活動計画

ケープタウンで開催された第 35 回万国地質学会（8 月）の第四紀層序関係セッションで、L-M 境界 WG 議長の Head 教授より、L-M 境界 GSSP プロポーザル提出締切を来年 5 月末とすることが報告された。このため、本研究委員会における「千葉セクション」GSSP プロポーザル作成支援のための活動は、ほぼ本年度一杯続けることとなった。本年度の活動計画を以下に示す。

- 1) プロポーザル作成のための関係者会議の開催（9 月、2～3 月）
- 2) プロポーザル作成に関わる研究データの統合会議の開催（10 月）
- 3) JpGU2017 における関係セッションの開催（5 月）

###### (2) 火山テフラ研究委員会

###### ■ 2015 年度活動報告

2015 年度の活動は、INQUA の組織である INTAV の次期野外集会準備に終始した。2015 年 7 月の INQUA 大会の際に開かれた INTAV ビジネスミーティングにて、2017 年内に Bariloche tephra field conference 2017（アルゼンチン／

チリ）開催の方針が決まったが、その後実現が困難になったとの連絡があった。これをふまえ INTAV 関係者と連絡をとり、日本としての希望や状況を伝え代替地での開催にむけて準備中である。現在、イタリアかアイスランドでの開催案が浮かび検討中であるが、これまで研究委員会として日本国内での意見を集約し、INTAV 内での議論に反映させた。

###### ■ 2016 年度活動計画

2018 年に予定されている INTAV 主催の野外集会に向けて、その周知活動を実施し、国内の研究者に同集会への参加を促す。なお本野外集会については 2016 年 10 月時点で東欧地域での実施が検討されており、開催時期やテーマ等について日本国内の要望を集約し、INTAV 主催野外集会の運営に反映できるように努める。またテフラ試料の共有化を図るテーマの研究集会、ないしは巡検を伴う研究集会を開催する。

###### (3) 「社会のための第四紀学」研究委員会

###### ■ 2015 年度活動報告

2016 年 6 月 19 日に「ジオパークと考古学・土壌学・人類学」のシンポジウムを開催し、約 70 名の参加者があった。現在、講演の内容を第四紀研究特集号を刊行すべく、編集を進めている。

###### ■ 2016 年度活動計画

- 1) 2016 年 6 月に開催したジオパークと考古学・人類学・土壌学シンポジウムについて、第四紀研究特集号を刊行する。
- 2) 2017 年 1 月にジオパークと土壌学のシンポジウムを開催し、第四紀研究特集号を刊行する。
- 3) これらの活動はジオパーク支援委員会の協力で行う。

##### 4-2. 領域登録状況（吾妻幹事長）

会則および役員選挙規程の一部改訂に基いて 2017 年度から全ての会員が領域に登録されることを受け、9 月 30 日に会員全員に向けて領域登録の依頼を行った。1 月 17 日時点における登録状況は以下の通りである。

#### 領域登録・会員データ調査結果

2017 年 1 月 17 日現在

2016 年 9 月 30 日領域・名簿調査票発送

1182 件

(評議員の定数)

領域登録者数（正会員・学生会員）	1067	領域 1	112	(5)
未登録者数（正会員・学生会員）	50	領域 2	290	(9)
逝去	3	領域 3	203	(6)
退会希望者	36	領域 4	265	(8)
賛助会員	10	領域 5	197	(6)
名誉会員	16		1067	(34)

1182

## II. 審議事項

### 1. 日本第四紀学会若手学術賞の設置について

昨今の若手研究者の評価にかかる状況を鑑み、第四紀学における若手研究者の国際的な研究活動を称えるため、新たに「日本第四紀学会若手学術賞」を設置する。本賞の対象および選考過程について資料（資料2）をもとに説明が行われた。審議の結果、若手学術賞を設置することとし、詳細については内規の形で次回の評議員会に提案することとした。

### 2. 細則類の改訂について

**2-1. 2016年度総会で承認された「日本第四紀学会会則」および「日本第四紀学会役員選挙規程」の一部改訂を踏まえて、以下の各細則の一部改訂を行う。**

#### (1) 日本第四紀学会 法務委員会規定

内容を審議した。第5条に文言の修正余地があるので、次回評議員会で決定することとした。「幹事」、「法務担当副会長」がなくなることに伴い関連事項を削除、修正を行うこととした。申し立て受付については、学会事務局に届いた案件を会長が確認、会長と法務委員会だけで行うことを確認。この方針に合わせて、第5条の表現の修正案を作成し、次回の評議員会で再度審議することにした。

(2) 日本第四紀学会 名誉会員候補者選考規定（資料3）

規定を「程」に変更。参考事項について、現行の規程にあわせて改正することで、改正案が承認された。

#### 2-2. 日本第四紀学会 論文賞と奨励賞選考に関する内規（資料4）

例年のように混乱が生じている選考手続きを円滑に行うため、以下の改訂を行う。

11. 編集委員会に対して推薦を依頼することについて、依頼が求められた場合、編集委員会が必ず推薦しないとイケないわけではないことを確認、4.「専門分野を付記」は、今回限りの規程であることを確認、今回の推薦募集から適用されることを確認し、改正案が承認された。

#### 2-3. 細則の新規制定提案

今年度実施される役員選挙後の学会運営を円滑に行うため、以下の各細則の新規制定が提案された。

(1) 日本第四紀学会評議員会規程（資料5）。

審議の上、決定された。

(2) 日本第四紀学会領域規程

規程案をもとに審議が行われた。修正を行い、決定は次回の評議員会とすることとした。

(3) 日本第四紀学会執行部会規程

規程案をもとに審議が行われた。修正を行い、次回の評議員会に提出することとした。

### 3. 2016年度役員選挙と選挙管理委員会委員について

2016年度役員選挙の選挙管理委員会の委員とし

て、下記の5名を任命することとした。

谷川晃一朗会員、大上隆史会員、水野清秀会員、岩瀬 彬会員、山田和芳会員

### 4. その他

役員選挙スケジュール案（資料6）および投票用紙案について説明が行われ、承認された。

年会費長期滞納者について名簿を回覧し、年度末（7月）までに再度会費納入依頼を行い、納付がなかった場合は除籍とすることを決定した。

議長解任後、奥野 充 2017年大会実行委員長より大会と巡検の紹介があった。

次回評議員会。6月17日（土）に開催を予定（学会賞学術賞講演会と同日）。

### （資料2）

#### 日本第四紀学会若手学術賞の設置について

昨今の若手研究者の評価にかかる状況を鑑み、第四紀学における若手研究者の国際的な研究活動を称えるため、新たに「日本第四紀学会若手学術賞」を設置する。本賞の対象および選考過程については、以下の通りとする。

#### 〔授賞の対象〕

- ・若手学術賞は、国際誌等を通じて第四紀学に貢献した優れた論文を公表した若手会員（選考が行われる当該年の4月1日時点で39歳以下の会員）に授与する。
- ・若手学術賞の授与は、原則として毎年とし、若干名とする。
- ・受賞対象は、授与年の前々年及び前年の2年間に国際誌等に掲載された論文の筆頭著者とする。
- ・論文はオンライン化された論文を含む。
- ・同一人の受賞は一度のみとする。

#### 〔候補者の推薦〕

- ・選考年度の12月末日までに「第四紀通信」等を通じて、受賞候補者の推薦募集とその期日を会員に周知する。
- ・受賞候補者を推薦しようとする会員は、周知された期日までに、日本第四紀学会学会賞・学術賞選考委員会宛てに推薦書類と論文のPDFを提出する。
- ・受賞候補者の推薦書類には、次の事項を記入する。
  - (1) 賞の名称
  - (2) 推薦者名（自薦を含む。領域推薦の場合には領域代表者名）
  - (3) 受賞候補者名・所属・生年月日
  - (4) 受賞論文題目、論文が掲載された雑誌名及び出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日およびDOI。
  - (5) 推薦理由（800字以内）



(6) 推薦者・受賞候補者の連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）

[受賞候補者の選考]

- ・若手学術賞の受賞候補者の選考は、学会賞・学術賞選考委員会が行う。
- ・会員及び領域は、選考委員会に対して若手学術賞の受賞候補者を推薦することができる。
- ・選考委員会は、評議員会が指定する期日までに選考を終了し、受賞候補者を会長に答申する。選考委員会は、受賞候補者の選考にあたって、必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。
- ・学会賞・学術賞選考委員が受賞候補者となった場合には、賞の選考に関与しないこととする。
- ・学会賞・学術賞選考委員会は、執行部会が定める期日までに、届いた自薦と他薦の中から受賞候補者を選考し、会長に答申する。
- ・受賞候補者が、当該年の学術賞・論文賞・奨励賞のいずれかの受賞候補者となっても、双方の賞の妨げとしない。

[受賞者の決定]

- ・選考委員会から推薦された受賞候補者をもとに、評議員会が受賞者を決定する。

[選考結果の報告]

- ・選考委員会の委員長は、評議員会の結果を踏まえて、選考経過と選考結果を総会に報告する。
- ・選考委員会の委員長は、評議員会で決定した受賞者と受賞理由を「第四紀通信」を通じて会員に報告する。

[授賞式]

- ・若手学術賞の授賞式は総会にあわせて行い、受賞者に賞状を授与する。

(資料3)

**日本第四紀学会 名誉会員候補者選考規程 (改訂案)**

(1975年11月17日、評議員会にて決定)

(2007年2月3日、評議員会にて一部改正)

(2009年2月7日、評議員会にて一部改正)

(2017年1月28日、評議員会にて一部改正)

- 第1条 本規程は、日本第四紀学会会則第6条に基づき、第四紀学および日本第四紀学会について特に顕著な功績のある会員に与えられる名誉会員の候補者選考に係わる事項を定める。
- 第2条 名誉会員は、会長、学会賞・学術賞受賞者などとは異なり、個人のみならず日本第四紀学会にとっての名誉として位置づけ、その候補者を選考するものとする。
- 第3条 評議員会は、原則として2年ごとに名誉会員選出のために、名誉会員候補者選考委員会（以下選考委員会と省略する）を設ける。

第4条 選考委員会は、会長により委嘱される若干名の正会員で構成される。委員の任期は、委嘱された日から評議員会への答申を終える日までとする。

第5条 選考委員会は、次にあげる選考基準を満たす正会員の中から、多大の貢献があった者を名誉会員候補者として推薦することができる。日本第四紀学会に対し永年にわたり特に顕著な貢献のあった者、あるいは第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた者。たとえば会長経験者、評議員・INQUA 執行役員・日本学術会議会員などを長期にわたって務めた者、日本第四紀学会賞・学術賞受賞者など。なお、そのほかの名誉会員候補者の条件として、(1) 年齢70歳以上、(2) 本会会員歴20年以上、を満たしていることとする。

第6条 選考委員会は、評議員会から指定された日までに候補者選考を終了し、選考経過と結果を評議員会に答申する。選考委員会は、必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

第7条 評議員会は、選考委員会から推薦された候補者を元に、最終的な名誉会員候補者を決定し、総会にはかる。

第8条 本規程の変更には、評議員会の承認を必要とする。

第9条 本規程は 2017年8月1日 から施行する。

[参考]

会則第6条 会員は正会員、名誉会員および賛助会員の3種とする。正会員および名誉会員は第2条の目的達成に寄与する個人とし、団体講読会員は会誌を定期的に講読する大学・研究所・博物館その他の機関とする。賛助会員は、第2条の目的を賛助する個人および法人とする。名誉会員は第四紀学について顕著な功績ある者の中から評議員会が推薦し、総会の議決によって定める。

[名誉会員の権利に関する規定]

会則第7条 (略) 名誉会員は会費の納入を要しない。(略)

~~会則第8条 総会は正会員をもって組織し、(略)~~

会則第9条 名誉会員は総会に参加し、意見を述べることができる。

~~会則第12条 会長、副会長、評議員は正会員の中から選挙によって選出される。ただし、会長経験者は被選挙権を有しない。(略)~~

会則第14条第4項 会長経験者および名誉会員は、評議員会に出席し、意見を述べることができる。

役員選挙規程第14条 本規定による評議員選挙の

選挙権及び被選挙権を持つものは、選挙実施該当年の2月1日時点の本会正会員とする。ただし、会長経験者は評議員選挙の被選挙権を有しない。

(資料4)

日本第四紀学会 論文賞と奨励賞選考に関する内規

1. 選考の対象は、授与年の前々年及び前年の2年間(2巻分)の第四紀研究に発表された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文とする。奨励賞については、選考が行われる当該年の4月1日現在で、会員である35歳以下の筆頭著者の論文を対象とする。すでに奨励賞を受賞したことのある筆頭著者の論文は、奨励賞の対象とならない。
2. 論文賞と奨励賞の授与は原則として毎年とし、受賞論文数は論文賞が1-2編程度、奨励賞が2編程度とする。
3. 論文賞受賞論文が複数の著者(研究グループ等を含む)により執筆されたものである場合には、執筆者一同に論文賞を授与する。奨励賞については会員である筆頭著者に授与する。同一論文が、論文賞と奨励賞の候補となった場合には、論文賞を優先する。ただし、奨励賞受賞候補者であることを選考結果報告に記載し、評議員会で論文賞が授与された際は、奨励賞の副賞も授与する。また評議員会で論文賞が授与されなかった場合は、奨励賞候補者として評議員会で審議する。
4. 論文賞選考委員は、会長が専門分野を付記して推薦した10名以上の会員の中から、評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは、専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は、年長順とする。
5. 論文賞選考委員が受賞候補者となった場合には、賞の選考に関与しないこととする。
6. 論文賞選考委員に欠員が生じた場合は、次点者を補充する。
7. 論文賞と奨励賞の選考に当たっては、論文の独創性、将来の発展性、総合性や重要な発見などを選考の基準とする。
8. 受賞候補者の推薦書類は、幹事会が定める期日までに日本第四紀学会論文賞選考委員会宛てに提出する。
9. 受賞候補者の推薦書類には次の事項を記入する。賞の名称、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を含む)及び推薦理由。
10. 会長は第四紀通信に論文賞と奨励賞の受賞候補者の推薦募集に関する記事を掲載する。
11. 論文賞選考委員会は、選考対象となる論文を独自に調査するとともに、会員からの候補者・候補論文の推薦の状況をみて、編集委員会に

対し推薦を依頼することができる。

12. 論文賞選考委員会は、幹事会が定める期日までに届いた自薦と他薦及び編集委員会から推薦された候補者・候補論文を参考にして受賞候補者・候補論文を選考し、会長に答申する。また、論文賞選考委員長は、評議員会と総会において、選考経過と結果を報告する。
13. 論文賞選考委員長は第四紀通信に評議員会で決定した受賞者と受賞理由を発表する。
14. 本内規の変更には評議員会の承認を必要とする。
15. 本内規は、2017年1月29日から施行する。

(資料5)

日本第四紀学会評議員会規程

(2017年1月28日、評議員会にて決定)

[目的]

第1条 日本第四紀学会評議員会は会則第14条に基づく組織であり、日本第四紀学会の運営に関する案件を審議決定する。また、本会会則の施行に係わる細則を決定する。

[業務]

- 第2条 評議員会は、以下の業務を行う。
- (1) 学会運営の具体的方策、事業計画及び予算案の承認、執行部会に対する指示
  - (2) 名誉会員の推薦
  - (3) 会員の除籍
  - (4) 評議員会議長・議長代理、会計監査の選出
  - (5) 各常設委員会(法務委員会を除く)委員長、各選考委員会委員長の選出、およびこれらの委員会委員の承認
  - (6) 特別委員会の設置
  - (7) 本学会の定めた賞の受賞者の決定。但し、若手・学生発表賞は除く。
  - (8) 総会の議案の決定
  - (9) 規程の改訂あるいは新規規程の決定
  - (10) その他、執行部会から要請された案件の審議

[構成]

第3条 評議員会は会長、副会長と評議員によって構成される。会長経験者および名誉会員は評議員会に出席し、意見を述べることができる。会長が必要と認める場合には、評議員以外の者を評議員会に出席させることができる。

[議事録の作成]

第4条 評議員会の議事録は庶務委員会が作成し、評議員会が確定する。

[議題]

第5条 評議員会の議題は、執行部会が提出した議題、評議員が提出した議題とする。

[議決]

第6条 評議員会の議決は、原則として、多数決とする。

2. 電磁的な方法で開催された評議員会での議決は、会則第14条7に従う。

[規程の変更]

第7条 本規程の変更には、評議員会の承認を必要とする。

付則1 本規程は、2017年8月1日より施行する。

(資料6)

2016年度日本第四紀学会役員選挙スケジュール(案)

1月28日 選挙管理委員会の設置承認

2月下旬 選挙公示  
会員名簿発送

立候補・推薦候補者受付開始

学会HPに役員選挙専用サイト開設(会員限定)(立候補届出書・推薦届出書・辞退届出書を掲載)

3月中旬 立候補・推薦届出終了

※1週間後に辞退届締め切り。候補者確定

3月下旬 候補者名簿・投票用紙発送。(投票用紙は色分け)(次回以降はWeb投票を予定している。)

候補者名簿を役員選挙専用サイトに掲載

4月上旬 投票開始

4月下旬 投票締め切り

5月上旬 開票

選挙結果を役員選挙専用サイトに掲載

6月上旬 領域代表決定

6月中旬 新年度役員体制決定

8月26日 福岡大会開催

## ◆日本第四紀学会臨時評議員会議事録

組織改革委員会からの指摘に基づき、平成29年2月22日付けで電磁的方法による臨時評議員会が開催され、小野会長より下記の役員選挙規程の一部改正の発議がなされた。

(原文)

第8条 選挙管理委員は、会長・副会長・評議員の候補者になれない。

(修正案)

第8条 選挙管理委員は、会長・副会長・評議員の被選挙権を有さない。

(修正理由)

原文では評議員選挙については立候補／推薦に

よる候補者にならなくても全ての正会員に被選挙権が与えられてしまう(被選挙人名簿に掲載される)が、修正案により選挙管理委員はそこから除外するという事を明確にするため。

審議期間は1週間(3月1日まで)とし、会則第14条7項にもとづき評議員数の過半数の賛同が得られた時点で承認することとした。

電磁的審議の結果、第四紀学会事務局宛に返信された修正案への賛同投票数が2月24日の時点で評議員数(総数39)の過半数に達したことが小野会長により確認され、修正案が可決された。

## ◆日本第四紀学会 2016年度第4回幹事会議事録

日時：2017年2月18日(土)16:00～17:00(10:00～16:00は第4回組織改革委員会と合同での開催)

会場：明治大学駿河台キャンパス Global Front 7階 C4会議室

出席：小野(会長)、奥村、斎藤文紀(以上、副会長)、吾妻(幹事長)、藤原(編集)、須貝(渉外)、小荒井(渉外)、植木(会計)、百原(庶務、議事録)、伊津野(事務局)、北村、水野(以上、組織改革委員会委員)

欠席：兵頭(顕彰)、卜部(編集)、米田(企画)、齋藤めぐみ(広報)、小森(行事)

### <報告事項>

**庶務**：1. 会員名簿の作成を行った。2. 森林総合研究所公開シンポジウム「森林の多様性と大型哺乳類の関係を考える～気候変動が及ぼす影響の観点から～」の後援を行うことをMLで決定した。3. 選挙管理委員会の日程調整を行い、2月19日14:00～16:00に千葉大学園芸学部(松戸キャンパス)で第1回選挙管理委員会を開催することとした。4. 第2回評議員会の議事録を作成し、評議員会MLに配信した。

**広報**：1. 10件のお知らせを第四紀学会MLに配信した。2. 他学会大会のお知らせのMLへの配信やHPへの掲示は、第四紀学会が共催、後援のも

のに限ることとした。

**顕彰**：学術賞 1 件の推薦書を受け付けた。学会賞、論文賞、奨励賞の推薦はなかった。

**涉外**：日本地球惑星科学連合 2017 年大会について報告があった。共催セッションの発表件数の確認と、「ヒト—環境系の時系列ダイナミクス」の発表者、発表形式、タイトルの確認を行った。

#### <審議事項>

1) 細則の改訂について：改訂案をもとに審議を行った（第 4 回組織改革委員会議事録を参照）。

2) 役員選挙について：領域未登録者は選挙に参加できないことを確認した。選挙投票用紙を確認し、記載する説明について議論を行った。選挙用番号

について確認を行った。選挙管理委員会あてのメールアドレスを事務局で作成することとした。立候補者の所信のフォームを選挙管理委員会で作成することとした。選挙資料とともに、2 月 27 日予定の名簿発送時に会員用 HP のパスワードを送付する。

3) 『第四紀通信』掲載記事の確認：3 月 8 日締め切り。掲載内容、原稿執筆の分担について確認を行った。

4) 2018 年大会の開催地について、候補地を検討した。

5) 研究委員会の活動は領域で引き継ぎ、予算については領域ごとに配分する予定することを確認した。

#### ★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176